



チョムリアップスオ！ スロラニプロジェクト代表 飯塚由美子

満開の桜の花も散り、今年は春の嵐が何度も訪れています。もうすぐカンボジアのような暑い季節が訪れる頃になりましたが皆様におかれましてはお元気でお過ごしでしょうか？昨年ご支援ご協力ありがとうございました。皆様の温かいお心を胸に、私たち NPO 法人スロラニプロジェクトのメンバーは、定例の2月に暑い季節をシムリアップで味わいながらそれぞれの活動を実施してまいりました。今回の活動ではスロラニ障がい児支援の小さな一歩ですが大きな前進がありました。表紙の女の子は、新たに支援を開始したモイちゃんです。未熟児として生まれたモイちゃんは、発育が遅く生後7ヶ月にもかかわらず、小さな小さな女の子です。キャンディアンコールの西さんに情報を頂きさっそく訪問しました。これからの成長が楽しみです。

さらに、今回は、昨年10月にカンボジアの校長先生や福祉局局長を日本にお招きし、障害児支援の実態を視察していただいたことにより、理解が深まったことを確信し、障害児療育を前進させるために、モンテッソリアンの浅原氏、芦屋短期大学木下氏、言語聴覚士の泉氏に参加して頂きました。スロラニ小学校の気になる子どもや訪問先の小学校の子ども達を対象にスクリーニング【発達検査】を実施したり、障がいに対する意識調査のため、先生方や師範学校の生徒さんたちや高校生などに聞き取り調査を行うなど、新たな取り組みが開始しました。日本の120年前、ほとんど障害児者支援がないカンボジアシムリアップの地域において、私たちの活動は、ほんの針の穴にすぎませんが、ただ前進していることは確かです。皆様、是非、今年度もご支援ご協力よろしくお願いたします。

師範学校附属小学校の生徒にスクリーニングを行なう浅原氏



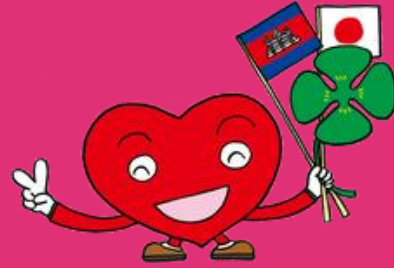
スロラニ通信 11号

〒655-0049

兵庫県神戸市垂水区狩口4丁目31-505

Mail : srolanhproject@gmail.com

URL : <http://www.srolanh.org/>



私たちの活動への協力をお願い

スロラニプロジェクトは継続して支援いただく、皆様のご協力によって成り立っています。

活動に賛同していただけた方に、スロラニプロジェクトの会員になっていただき、その会費を大切に支援活動費として使わせていただきます。ご協力お願い致します。

【会員の種類】

正会員（個人）

1口1000円（月会費）

1口10000円（月会費）

賛助会員（団体）

1口1000円（年会費）

1口5000円（年会費）

* 賛助会員（個人）の年会費につきましては3口からお願いします。

振込先のご案内

【銀行振込】

みなと銀行 支店：明舞支店（普）

口座名：特定非営利活動法人

スロラニプロジェクト理事長飯塚由美子

口座番号：3895462

【郵便振替】

加入者名：

特定非営利活動法人スロラニプロジェクト

口座記号番号：

00980-1-172480

恐れ入りますが、手数料についてはご負担をお願いします。

やさしい授業 元教師 須藤徳子

2月13日午前中にスロラニ小学校で2年生3年生を対象に算数の授業をさせてもらった。当日になって、2・3年生は同じ教室で学習している（いわゆる複式学級）ということが分かり、別々の指導案で準備してきたが、一緒に学習する方が2時間使えて沢山学習できると思い、担任の先生の了解を取った。初めの導入はどちらも同じ学習だったので、後半の筆算の内容を変えれば良いと考えた。

～授業の流れ～

(1) 10の数図ブロックカードを使って、見ただけで数が言える。(2) 9+0の足し算のやり方を教える。(3) 同じように足し算のフラッシュカードで答えを言う。(4) 二桁の足し算の筆算のやり方を教え、練習問題をやる。2年生は繰り上がりのなし、3年生は繰り上がりのあるプリントを配る。(1)から3までは、全員を対象に私がフラッシュカード(9+5) [8+3]などの足し算の問題を書いた大きなカード)のやり方を見せた後、担任の先生にやってもらった。3年生は、なんとか集中して取り組んでいたが、2年生は算用数字を習ったばかりで、良く分からないようだった。(4)の筆算は2年生20人中、大体できた子が10人、教えながら半分ぐらいできた子が6人、ほとんどできない子が4人だった。ほとんどできない子は、0を書いて数を数える1対1対応ができない子もいたので、10までの数の認識がまだできていないと思われる。

3年生20人中、大体できた子は16人、ある程度できた子は3人、ほとんど間違えた子は1人だったが、この子は繰り上がりの1を足すのを忘れていただけなので、きちんと教えられると思われる。1年の差は大きいと思ったが、カンボジアの教科書を見ても2桁の繰り上がりのある足し算の学習は2年生で習うことになっているので、3年生は出来て当たり前ともいえる。3年生の中に、知的障がいのあるソーム君がいて彼もみんなと同じ課題をやりたがり、私の手を引いて教えて欲しいようにしていた。私が他の子に教えていたので、彼の前にいた良くできる男の子が後ろを向いて教えていた。ソーム君は、数字も書けないので手を添えて書いてやるなどの様子が見られたのは嬉しい光景だった。

ここまでやって3時間目が終わったので、筆算のプリントを集めて10分間の休憩をとった。4時間目は、時計の勉強を少しした。これも、2年生にはちょっと難しく3年生には簡単なようであった。やはり2・3年生一緒に学習するのは無理があったと、大いに反省した。

～課題と展望～

担任の先生は、2年目の若い先生で、真面目に一生懸命指導しようとしているのが良く分かった。

2年目で、40人の複式学級を指導するなんて日本では考えられないことだ。いつもはどうしているのかと尋ねると、2年生が文字の学習をしているときに3年生に算数を教える等、違う学習をさせているとのこと。担任の先生には、次回来るまでに、今回やった数図ブロックカードを見て数を言う練習を、算数の時間の最初に必ずするようにお願いしてきた。そして、足し算と引き算のフラッシュカードと2年生でもうじき習う掛け算のフラッシュカードも置いてきたので、それらのフラッシュカードを有効に使って学習を進めることもお願いしてきた。真面目な先生なので、きっとやってくれると期待している。

また、午後から行った本校であるドントロー小学校では、スロラニ小学校からきた子は勉強ができないと言われているそうだが、そんなことは言われぬように担任の先生と一緒に頑張りたいと思った。



皆様ご支援ありがとうございます！

皆様から頂いた寄贈品等はシムリアップ孤児院センターやスロラニ小学校を中心に支援の必要な方々にお配りして大変喜ばれています。

引き続き当団体へのご支援よろしくお願いたします。

NPO 法人スロラニプロジェクトスタッフ一同

2月13日午前 アブサラ機構職員 38名



今回で3回目となるアブサラ機構への救命講習。紆余曲折しながらも、ようやくこの機構への指導方法が確立できた。受講者は毎回初めての職員であるが、スタッフは私の指導の流れもよく把握してもらって、スタッフから、今回も応急担架、「例のやつするんですか？」など、やる気満々な声かけをいただき、心強く安心して指導にあたることができた。講習時間、2時間30分と時間たっぷり頂き、心肺蘇生法から、外傷の処置、搬送法など、遺跡での活動に合わせた指導が出来た。毎回ではあるが、受講者職員の意識は高く、真剣に受講されていた。今後も職員約400名に対し、この救命講習を実施していきたい。

最後に、講習のサポートをして下さったスタッフの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました、そしてこれからもサポートよろしくお願いします。

歯科支援 歯科医師 大森茂樹

歯科部として9回目の現地活動には歯科医師1名、歯科衛生士1名、大学生1名が主なメンバーとして参加し、適宜他のメンバーに力を借りて歯科保健啓発活動を行った。歯科部としての活動概要は次の通り。

小学生対象の歯科保健指導	スロラニユ小学校児童約70人／師範学校附属小学校1年生約100人
中学生対象の歯科保健指導	ドントロー中学生徒44人／1979年1月10日中学生徒約100人
学生に対する歯科保健指導	師範学校学生66人
障がい児口腔ケア	障がい児デイサービスにて7人／個別訪問1人
個人宅での歯科啓発（ハブラシ配布）	ロン村2カ所／オートテュン村1カ所／他1カ所で紙芝居 ほぼすべての場所においてパペットを用いて口腔衛生に関する啓発の導入を行った。

小学校・中学校では歯垢染色を施したうえで全員にハブラシを配付し、ブラッシング指導を行った。その際、手鏡を貸与し、観察を促した。

ブラッシング指導に先立ち、歯の健康に関心を持ってもらうための講話をパネル等の媒体を用いて行った。

師範学校の学生に対しては歯の生え替わりについて簡単に図示説明し、第一大臼歯の特徴を強調してブラッシング方法を解説し、児童に対する指導手順をあらかじめ知らせた上でブラッシング指導の実習をしてもらった。

支援している障がい児に対しては歯科衛生士による口腔ケアのほか、母親にもやってもらい、実践を促した。

訪問先の村では子どもに対してよりも大人に対して「子どもの歯を守るのは大人の役目」を伝えることを目標に、ねかせみがきを絵で示したり実演したりした。



歯科部としては「未来の子どもの歯を守るためにできることを」を活動テーマに掲げて今回の活動に臨んだ。当初参加予定だったもう一人の歯科医が急遽参加できなくなったため、予定変更等もあったが、できることをできる人ができる範囲で、というスタンスで、周りのメンバーを巻き込みながら、大人数に対応した。はじめての取り組みも不十分な点はあったが、想定を逸脱することなく実施できた。

村の女性に「子どもの歯をブラッシングしてやったことがあるか」と尋ねると、誰もしたことがなかった。その後訪れた中学で生徒に「親にブラッシングしてもらったことがあるか」と尋ねると、1割程度の生徒が手を挙げた。市街地に位置する中学でもその程度である。大人に対する教育が必要なのだが、長い目で考えて、将来教師になる学生や、将来親になってゆく中学生に、「大人になったら、子どもの歯を守って下さい」ということを伝えることが重要であると考えた。

今後も目の前の子どもたちの健康増進のみならず、未来の子どもの歯を守るという観点で活動を継続していきたい。

その他今後の課題としては、参加メンバーが少ない場合、今回と同じような集団指導を行うことができるかという不安がある。メンバーによっては、活動内容を見直さなければならぬかもしれない。

なお、今回これだけの活動ができたのは歯科部メンバーだけでなく、臨機応変に協力して下さった仲間のみなさんのおかげです。心より感謝しています。ありがとうございました。



救急救命講習報告 救急救命士 高橋茂樹

2月10日午後 ドントロー中学校1年から3年生クラブ活動の生徒44名への救命講習

2月度は1年生から3年生のクラブ活動の生徒44名への指導となった。受講生の内、3分の2が過去に新1年生への指導した経緯がある生徒で、蘇生人形を見るとすぐに胸に手を当てる仕草や胸骨圧迫をする生徒もいて、毎年指導している講習の成果が現れているのを実感した。そして、初めての生徒も2回目の生徒の動きなどを見てか、難なくこなしていた感じであった。継続的に新1年生に対しての講習を行ってきたが、その後の講習の成果はどうなんだろうと思っていたが、彼らの姿を目の当たりにして、成果が出ていると実感したのと、安堵の気持ちになった。今後も、新1年生への指導を続けていこうと再認識できた講習であった。



2月11日午前 孤児院年長者5名への救命講習

本来の目標でもある、年長者のインストラクター養成として、今回で6回目となる講習。少し不安ではあったが、インストラクター候補の、メイ・オウダム君(18才)を中心に、孤児院年長者への指導となった。障がい児デイサービス、歯科支援をされている中での講習で、通訳なし、場所は宿舎の前の廊下で実施する。言葉の壁はあったが、施設職員のソ・ケイン君(22才)が英語を話せるので、英語・クメール語・日本語のごちゃ混ぜの中お手伝いしてもらった。前回まで指導してきた事を、オウダム君に指導者として実施してもらった。テキストを見ながらではあるが、受講者に対してしっかりとした口調で、自信を持って指導にあたってくれたことは、今まで彼を指導してきた成果が少しあったのかなと、チョット胸が熱くなってしまった。AEDの取り扱いも併せて指導に盛り込んだが、現実にはこの地区にはまだ器械そのものはなく、近い将来の為の準備として知っておいてもらうことも大切なことから指導に盛り込んで行った。

『オウダム君』まだまだ、完璧な指導とは行かないが、次回までに勉強しておくようにと伝えたとこ、「アイムティーチャー」と言って、ほほ笑み返してくれた。その言葉が嬉しかったのと、感謝の気持ちが湧いてきた。将来、カンボジア人がカンボジア人を指導できるその日までゆっくりではあるが、慌てずしっかりと一歩ずつ踏み締めて進んでいきたいと思う。オウダム君に感謝！



2月12日午前 師範学校学生 66名



今回で2回目となる師範学校学生への指導。33名ずつ、歯科支援・救命講習の2班に分かれての実施。2回目ということもあり、指導にも手馴れた感がありスムーズに行えた。

前日もそうであったが、教職を目指すだけあって教養もあり、解剖生理から心肺蘇生の重要性を伝え実技指導にあたる。将来教師としての目標を持つ彼らは、命の大切さや、目の前で人が倒れた時の初動など身につけてもらった。

そしてもう一つ成果があらわれた事が・・・。講習指導の途中で、別の班で貧血の学生がおられ、講習の途中ではあるが、指導を中断してそちらへ向かわなくてはいけないこととなり、無事倒れた学生も回復され戻ってきた時、目にしたのは、スロラニユのメンバーが私の代りに中断なく指導を続けてくれていた事、迷いもなく「続けて指導しておいたで！」と普通に声かけしてくれたこと。もうみんなに感謝しかないと涙が出そうになった・・・こと。記憶に残る一幕でした。ありがとうございました。

2月12日午後 1979年1月10日高等学校

高校生45名と見学者45名の中学生への救命講習。受講生は、ボーイスカウト・ガールスカウトの様な制服を着ていて、日本で言う日赤のマークを胸に貼っていた。よく聞くと、彼らは観光地でもある遺跡群で、ボランティア活動をされているということで、活動中に遭遇するであろう、心肺蘇生法と事故を想定した講習を実施する。最後の質問も前回、赤十字(Red Cross)で受講したであろう、人工呼吸はどうか等、込み入った質問もあり、レベルの高さを感じた。今後も依頼があれば実施していきたいと思う。

